

1 総括

札幌市衛生研究所では、市の保健衛生及び環境保全行政の科学的かつ技術的中核機関としての役割を担い、主に保健所や環境局、医療機関等から依頼された検体の試験検査を行っている。併せて、積極的に調査研究を実施し多くの成果を挙げ、国内の関連学会等で発表を行っている。また、施設見学会の開催等を通じて、市民に身近な衛生研究所を目指しているほか、保健環境情報の収集・解析・提供業務の充実・強化を図っている。

さらに、人を対象とする医学研究については、倫理的・科学的観点から適正な推進を図るため、倫理審査委員会を設置し、研究デザインについて承認を得たうえで疫学研究等を行っている。

微生物部門では、感染症や食中毒等の健康危機に関する検査として腸管出血性大腸菌、赤痢菌や食中毒菌等の細菌検査、新型コロナウイルス、インフルエンザ、麻しんやノロウイルス等のウイルス検査、HIV抗体等の血清検査のほか、食品の安全性確保のための規格検査等を行っている。また、結核菌の遺伝子型やインフルエンザの薬剤耐性、さらに、検査技術の改良等に関する調査研究、厚生労働科学研究による健康危機管理に関する研究にも参加している。感染症発生動向調査事業としては、病原体ウイルス検査を行うとともに、地方感染症情報センターとして、市内で流行している感染症の発生動向を毎週ホームページに掲載するなど、市民、医療機関等への情報提供を行っている。

母子スクリーニング検査部門では、生後4日から6日の児を対象とした新生児マススクリーニングを実施するとともに、1か月児を対象とした胆道閉鎖症検査を行っている。これらの事業により、これまでに数多くの患者を発見し、早期治療に結びつけるなど大きな成果を上げている。また、発見された患者については、マススクリーニング関連疾患依頼検査システムにより、治療効果の把握や診断補助のためのフォロー検査を行っている。なお、母体、胎児及び新生児の健康保持・増進を図ることを目的として1986年より実施してきた妊婦甲状腺機能検査事業は、2022年度で終了した。

食品化学部門では、乳・乳製品、清涼飲料水等の規格検査をはじめ、食品添加物、重金属、残留農薬、残留動物用医薬品、遺伝子組換え食品、食物アレルギー及び放射性物質の検査を行っているほか、食品以外では、家庭用品中に含まれる有害物質の規制基準に基づく検査及び健康食品中の医薬品成分の検査を実施している。また、日頃より検査技術の改良等に関する調査研究を行っているほか、国立医薬品食品衛生研究所の「食品添加物一日摂取量調査等」にも参加している。

大気環境部門では、大気環境の汚染状況の把握や汚染原因の解明等のため、有害大気汚染物質検査を継続して行っているほか、2013年度から微小粒子状物質（PM_{2.5}）の成分分析、2015年度からは大気浮遊じん等を対象に放射性物質検査を行っている。また、地球環境問題への取組として、酸性雨（雪）の検査を実施している。さらに、環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）を受託し、環境調査等にも取り組んでいる。

水質環境部門では、河川水、事業場排水、地下水等の水質検査、ゴルフ場使用農薬、土壌汚染に係る検査等を行い、環境保全行政推進の一端を担っているほか、福島第一原発事故を受け、2011年度から放射性物質検査を行っており、2022年度も引き続き河川底質の放射性物質検査を行った。また、未規制化学物質に対応するため、環境省の化学物質環境実態調査（エコ調査）を受託し、初期環境調査等に取り組んでいる。